2025 年 10 月 3 日（金）

東アジア言語文化学会第 5 回会報

文責：高橋弥守彦　趙海城　胡傑　栗原千里

目次

1．2025 年 4 月～2027 年 3 月期の役員体制 1
2．月例会 1
3．2024 年度夏季大会 2
4．2024 年度冬季大会 4
5．学会誌刊行 6
6．連語論普及委員会活動報告 7
7．2025 年度大会 7
8．会計報告 7
9．事務局からの連絡 8

1．2025 年 4 月～2027 年 3 月期の役員体制

HP で公開されている通りである。

2．月例会

2.1　研究発表の人数と持ち時間など：テンセント会議により原則 1 名で研究発表、2 名の場合もある。研究発表 40 分間、質疑応答 20 分間。研究発表と質疑応答を合わせて 90 分まで延長可。

2.2　テーマと要旨：研究発表希望者はテーマと要旨 500 字前後を 3 週間前までに学会事務局（higashiajiagengobunka@hotmail.com）まで連絡をすること。

2.3　2024 年度の月例会における研究発表は以下の通りである。

2024 年度(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

No.	発表者	発表タイトル	年月日
1.	申华	多模态教学模式在初级汉语写作课中的应用研究	2024/3/15
2.	丁诗璇	德语母语者汉语动趋构式习得研究	2024/4/19
3.	樊 理娜	日中食料安全保障に関する比較研究	2024/5/17
4.	岑慧穎	無対他動詞と有対他動詞の量的研究―単純動詞を中心に―	2024/6/21
5.	小出文毅	石山福治著『支那語飜譯法講義』についての研究	2024/7/19

6.	高橋弥守彦	中日両言語の語順が不対応になる場合	2024/9/20
7.	高橋弥守彦	”有”字文の用法と日本語訳について	2024/10/18
8.	小田桐ジェイク	アニメ版『人間失格』の提示の仕方――ＤＶＤに付与されるパラテクスト的要素を読む	2024/11/15
9.	程亮	狐仙と稲荷：歴史人類学から見た東アジアの動物信仰	2024/12/20
10.	漆畑祐佳	高校英語における動機づけのための洋楽および英詩のクリエイティブ・ライティング実践研究----「主体的な学び」のために	2025/1/17

３．2024 年度夏季大会

2024 年度夏季大会のプログラムは以下のとおりである。
開 催 日：2024 年 8 月 3 日(土)、4 日(日)
開催時間：9:00～17:50 （時間はすべて日本時間）
時間配分：講演 50 分、質疑応答 10 分 ; 研究発表 25 分、質疑応答 10 分
開催形式：オンライン(テンセント会議)

No.	発表者（所属・身分）	発表タイトル
基調講演	時衛国（山東大学教授）	文学翻訳への招待―――日本語から中国語へ
	泉京鹿（翻訳家）	日本における中国文学翻訳の課題
	宋剛（北京外国語大学副教授）	ポストコロナ×プレ AI 時代の同時通訳者の可能性
	松永源二郎（香港中文大学深圳校副教授）	通訳教育の実践を通して考えたこと
1.	小田桐ジェイク（常葉大学・助教）	太宰治の代表作のアニメ化――「青い文学」シリーズ『人間失格』をめぐって
2.	羅燦（南京農業大学・院生）	改革开放以来中日科幻文学交流与文明互鉴研究
3.	欧陽詩華（武漢理工大学・院生）	《梦十夜》第四夜中的“他界”
4.	望月裕道（広島大学・院生）	「広島」表記の問題とその位相――峠三吉の詩の場合――
5.	閻瑜（御茶ノ水大学・講師）	田漢と谷崎潤一郎の相互影響 ―「不朽の愛」と「春琴抄」を中心に
6.	呉憂（四川大学・院生）	現代日本における若者の「推し活」とアイドル文化への一考察 -『推し、燃ゆ』を中心に-
7.	王琳軒（中国人民大学・院生）	文化心理学から見た中日両国の集団主義と個人主義の変遷についての比較—1949 年から 2000 年までを中心に—

8.	牛夢婷（横浜国立大学・院生）	家族に若者の思春期を巡る規範の伝達に関する考察―中国河南省を事例にー
9.	史欣鷺（武漢理工大学・院生）	死亡·救赎·新生：吉本芭娜娜小说《厨房》和《满月》中的死亡书写
10.	林彬（上海外国語大学・准教授）	政治類文献における義務類モダリティ表現の翻訳について
11.	王金芝（浙江越秀外国語学院・講師）	中国人上級日本語学習者の日中逐次通訳に及ぼす作動記憶容量とメモの影響
12.	何雪梅（Augsburg Volkshochschule・講師）	中国語において反意に見えて同義である表現とその訳についての一考察
13.	韓仲堯（山東大学・院生）	新时期下日语公示语类文本的翻译研究探索
14.	荆瑶（山西大学・講師）	『論語』における「忠」、「恕」の現代日本語訳の日中比較 ――吉川幸次郎訳、加地伸行訳と孔健訳、劉徳潤訳をめぐって
15.	韓樹坤（山東大学・院生）	テンスから見た日本語可能表現の中国語訳について
16.	王嘉琪（江西科技師範大学・院生）	フェミニズム翻訳理論の視野における翻訳研究――『バービー』日本語字幕を例に
17.	黄丹（江西科技師範大学・院生）	「アルグン川の右岸」の日本語訳
18.	鐘勇(南京航空航天大学・准教授)	词汇复杂度视角下的中国日语学习者接续词习得纵向研究——基于自建的学习者和母语者日语作文语料库
19.	肖炫菁(貴州大学・院生)	钩沉索隐：汕日语教材的语言学考察与历史背景溯源
20.	姚伟丽(黒龍江大学・院生)	基于 FPB 的混合式教学模式
21.	李ナイキ(名古屋大学・特任助教)	鎌倉時代国語辞典の成立について
22.	周亜芸(東邦音楽大学・特任講師)	大学の日本語の授業でのトランスランゲージングの役割に関する一考察
23.	柯不凡（厦門大学・院生）	「適」を含む二字漢語の通時的考察－「適当」「適切」を中心に
24.	任庭輝（大連外国語大学・院生）	コロストラクション分析による程度副詞の〈程度・量修飾〉の使用実態に関する一考察－動詞との共起関係を中心に－
25.	占秒秒（上海師範大学・院生）	“そうにない”与“なさそうだ”中否定辞“ない”的句法位置研究
26.	庞淼（大連外国語大学・院生）	日本語教科書における「と」「ば」「たら」「なら」条件表現の取り扱いに関する研究 ―『新経典日本語・基礎教程』と『みんなの日本語』を例に
27.	段建秀（北海道大学・院生）	日本語における連体・連用修飾の品詞的な考察
28.	時衛国（山東大学・教授）	“最/最为”与其他程度副词的同侧共现

29.	畢文涛（北京語言大学東京校・講師）	《国别化教材开发视角下的对日汉语词汇教学》
30.	叶玫宏（江西科技師範大学・院生）	从认知语言学隐喻角度分析动物系网络流行语
31.	胡春艶（安徽科技学院・副教授）	『後紅楼夢』における形容詞重畳式についての研究 ――『紅楼夢』前八十回との比較を中心に――
32.	楊悦（日本大学・非常勤講師）	中国語実践授業における「民族衣装」 ―教材としての民族衣装に関する研究―
33.	呂佳慧（上海大学・院生）	役割語の視点から見る中国人キャラの言語的特徴の変遷――2010 年代以降の作品を中心に
34.	高橋弥守彦（大東文化大学・名誉教授）	中日両言語が不対応になる場合について
35.	祁吉曼（山東大学・院生）	時系列に基づく「なら」文と“如果”文の語義連続性 ――前後文の動詞の性質とテンスとの関係を中心に――
36.	呉麗雅（天津師範大学・院生）	认知视角下的汉语领主属宾句的日语句式对应研究――以与日语状态变化主体他动词句的对比为中心
37.	高野晃尚（中南大学・助教）	発話行為の研究方法論
38.	李修衍（上海外国語大学・院生）	中国語の助動詞「敢」による意志表現の日本語訳について――中日対訳コーパスによる考察
39.	肖蕾（金沢大学・院生）	感謝表現と身体動作を用いた感謝行為の日中対照研究

４．2024 年度冬季大会

2024 年度冬季大会のプログラムは以下のとおりである。
開 催 日：2024 年 2 月 15 日(土)、2 月 16 日(日)
開催時間：9:20～17:50 （時刻はすべて日本時間）
時間配分：講演 50 分、質疑応答 10 分 ; 研究発表 25 分、質疑応答 10 分
開催形式：オンライン(騰訊会議(VooV Meeting)

No.	発表者	発表タイトル
基調講演	松村文芳（神奈川大学外国語学部教授）	現代中国語の意味
	杜改俊（北京外国语大学中文学院教授）	昨日中国文人理想再现-解读《西厢记》中张生形象的意义
1.	亀井容（文教大学・院生）	日中古都における建造物の保全についての考察――平城宮跡の建築プロセスを事例に

2.	閻瑜（お茶の水女子大学・講師）	中島敦の伯父・端『支那分割の運命』の成立に見る日中近代文人の交流と相互影響
3.	望月裕道（広島大学・院生）	原爆詩における「表記」の変容と朗読文化―日本語詩と外国語詩を通して―
4.	史蕊（広島大学・院生）	中国における太宰治文学紹介の〈興隆期〉に関する研究——2000 年代後半以降への考察を通して
5.	小田桐ジェイク（常葉大学・助教）	日本近代文学と映画との関係――室生犀星の随筆を読む
6.	高慧（北京工業大学・院生）	井上靖历史小说中的时空美学
7.	張雯宇（中国人民大学・院生）	日本“民本主义”政治理念在近代中国的翻译与受容—以清末民初四报为例
8.	龔智鵬（重慶外国語外事学院・講師）	今道友信对孔子思想的阐释与文化传播意义——基于三角互证法的研究
9.	李雪萌（大连理工大学・院生）	基于对译语料库的“によって”被动句的翻译和对比研究
10.	楊顔西（大連外国語大学・院生） 姚艶玲（大連外国語大学・教授）	日本語の「V―てくる」構文のアスペクト機能に関する考察――認知言語学的観点から――
11.	高野晃尚（中南大学・教授）	ターミノロジー学的視点から見る語用論関連術語の定義と使用-中国人日本語語用論研究を中心に-
12.	張正行（吉林大学・会社員）	上代に於けるカス型動詞に関する考察
13.	庞淼（大連外国語大学・院生）	中国の日本語教科書における「と」「ば」「たら」「なら」条件表現の扱い方の考察
14.	王云飞（大連外国語大学・院生）	日本の新聞報道における中国の特色のある術語の翻訳と
15.	張歆越（明星大学・院生）	複合助詞「に対して」「にとって」「について」の習得に関する研究-中国語を母語とする日本語学習者を対象に-
16.	荊瑶（山西大学・講師）	『論語』における「仁、義」の現代日本語訳の日中比較―諸橋徹次訳、宮崎市定訳と孔健訳、劉徳潤訳をめぐって―
17.	胡杰（国士舘大学・講師）	現代中国語範囲副詞“都”の意味
18.	単艾婷（公立小松大学・講師）	オーセンティックな説明テクストを題材とした中国語教科書の作成
19.	柳宇星（日本大学・助教）	日本における中国語教育者養成課程のカリキュラムに関する研究－現状と課題－
20.	畢文涛（北京語言大学東京校・講師）	初级汉语教学中动词“在”的教学设计研究
21.	趙海城（明星大学人文学部・教授）	中国語を母語とする日本語学習者の作文使用語彙分析――北京日本語学習者縦断コーパス(B-JAS)を用いて

22.	趙雨蒙（西安外国語大学・院生）	关于高中生日语阅读焦虑和自我调节策略的研究
23.	姚伟丽（黑龙江大学・院生）	基于文化视角的《日语古典语法》课程混合式教学设计
24.	松永源二郎（香港中文大学（深圳）・副教授）	人工知能が創り出す新しい言語文化の未来
25.	原華耶（広島大学・院生）	読解授業におけるアクティブラーニングの実践例
26.	孫楊（揚州大学・副教授）	敬語の使用実態から見る尊敬語の「変貌」について ―Yahoo 皇室ニュースに対するコメントをデータとして――
27.	彭慧（東京都立大学・院生）	人称代名詞における動作主未表出の考察―『金閣寺』の日中対訳小説を資料として―
28.	朱文婕（大連外国語大学・院生）	「NP1 に NP2 が VP」構文の使用実態の考察
29.	王瀟瀟（大連外国語大学・講師） 姚艶玲（大連外国語大学・教授）	日本の医療機関における「やさしい日本語」使用の談話分析
30.	邱雅傑（遼寧師範大学・院生）	日本媒体中中国特色话语表记的历时性分析――以“一带一路”为例
31.	沈春妍（大連理工大学・院生）	日中対訳コーパスに基づく「タナラ」条件文の計量的分析
32.	高橋弥守彦（大東文化大学・名誉教授）	中日両言語の重複表現について
33.	彭申奥（大連外国語大学・院生）	ライブコマースにおける日中勧誘談話の対照研究―「勧誘部」に用いられる語用的ストラテジーを中心に―
34.	羅娜（明星大学・院生）	日本と中国における謝罪言語行動の比較―「責任帰属」および「謝罪類型」の視点から―
35.	何雪梅（リューネブルク大学・講師）	日中独における依頼表現の対照研究
36.	王梓博（大連外国語大学・院生）	ネットの謝罪広報の語用ストラテジーに関する中日対照研究
37.	高胜男（大連外国語大学・院生）	認知意味論による視覚虚構移動についての日中対照研究

5．学会誌刊行

・研究会報告第 52 号（東アジア言語文化研究第 8 号）は 2024 年 9 月に刊行、HP に全文公開済み

・研究会報告第 53 号（東アジア言語文化研究第 9 号）は 2025 年 3 月末に 80 部出版。

4 月中旬に HP に全文掲載予定。

執筆者への発送予定

日本在住の執筆者：4 月中旬ごろ発送予定。

中国在住の執筆者：4 月中旬ごろ船便で中国事務局に発送予定、中国事務局から各執筆者に発送するた

め、6 月頃に執筆者の手元に届くと予想される。

6．連語論普及委員会活動報告

原則毎月第一月曜日 20：00～連語論勉強会開催、毎年 12 回開催
連語論関連資料の輪読。
連語論関連特集号の作成。

7．2025 年度大会

7.1　秋季大会：
2025 年 10 月 4 日(土)、5 日(日)にオンラインで開催する。

7.2　冬季大会：
2026 年 3 月 14 日(土)、15 日(日)にオンラインで開催する。

1. 講演（2 名）の依頼
2. 研究発表者の募集

8．会計報告

8.1 会計報告
会計は毎年 4 月 1 日～3 月 31 日までを 1 会計年度とする。

東アジア言語文化学会2024年度総会会計報告

2）2024年度収支状況報告書

（2024年4月1日～2025年3月31日現在）（単位：円）

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
前年度繰越金		526,855	0	夏季大会基調講演費	10,000	10,000	0
年会費				夏季大会基調講演費	10,000	10,000	0
一般会員（日本側）40人	80,000	92,000	12,000	ネット維持費	10,000	10,000	0
院生会員（日本側）28人	39,000	28,000	-11,000	出版費、郵送代	188,474	243,791	55,317
雑収入	0	23	23	郵送代	22,569	11,690	-10,879
日本側収入小計	119,000	120,023	1,023	サーバー一年間利用料	2,614	2,790	176
一般会員（中国側）58人	250,000	236,690	-13,310	サーバー一年間取得料	1,571	1,980	409
院生会員（中国側）33人	70,000	66,193	-3,807	手数料利用料	2,896	1,860	-1,036
雑収入（利息）	20	43	23	ソフト使用料	0	2,440	2,440
中国側収入小計	320,020	302,926	-17,094	利息	0	8	8
				日本側支出小計	248,124	294,559	46,435
				腾讯会议（日本）	0	23,570	23,570
				腾讯会议（中国）	0	983	983
				冬季大会基調講演費	10,000	10,000	0
				冬季大会基調講演費	10,000	9,759	-241
				郵送費	2,000	2,165	165
				夏季大会基調講演費	10,000	10,499	499
				夏季大会基調講演費	10,000	10,499	499
				中国側支出小計	42,000	67,475	25,475
収入合計	439,020	422,949	-16,071	支出合計	290,124	362,034	71,910
				次年度繰越		587,770	
前年度繰越金＋収入合計		949,804		支出合計＋次年度繰越金		949,804	

監査報告

監査の結果、2024年度会計報告は適正であることを認めます。

年　月　日

監査: 劉爾琴 印

監査: 福本陽介 印

9．事務局からの連絡

9.1　会費未納の会員はお支払いをお願いいたします。お支払方法はホームページに明示してありますので、それを参照してください。

9.2　学会誌投稿論文（第 53 号）は執筆要領の規定に沿っていないものがありましたので、規定通りに最新版のテンプレートを利用して執筆投稿してください。